

高田 本山 たより

第六十五回 檀信徒研修会
「他力本願」
高田派臨字・青屋寺住職 清水谷 正

号外でお知らせいたしました本山両御堂は

平成二十九年十一月二十八日

三重県初の国宝(建造物)に指定されました





第六十五回檀信徒研修会が十月二十五日に国宝指定を答申されたばかりの御影堂で開催されました。

「高田派の歴史」

明通寺住職 佐波真教師

本寺草創と一光三尊佛について話されました。玄奘三蔵が書かれた『大唐西域記』から菩提樹の話引用されて、明星天子が親鸞聖人に渡した柳は説法(慈悲)を、菩提樹はさと(智慧)を表していること、そこから明治時代に柳葉菩提樹が高田派の紋として出来たことを教えていただきました。

「高田派の作法」

本山知堂 北畠大道師

清め塩をテーマに話していただきました。節分の豆まき「鬼は外」のように、塩をまいて自分に不都合なものを払うのではなく、死という現実を受け止めることが大切だと説明して下さいました。

「他力本願」

高田派鑑学 清水谷正尊師

「他力本願」を他人の力を借りて自分の願いをかなえることだとよく

誤解されているが、「本願」とは阿彌陀仏のすべてのものを救いたいという願いであること、「他力」とは阿彌陀仏の願いのはたらき、阿彌陀仏の力であることを最初に説明されました。私が仏さまの力をあてにするのではなく、阿彌陀仏が私を仏にするはたらきなのだを教えて下さいました。

好き・嫌い・敵・味方とわけて、自分中心の世界を構築していながら、そのことを自覚していない私を、阿彌陀仏はその光明と名号によって離れようとせずに導き続けて下さっている。そのおかげで私はずっと阿彌陀仏から必ずおまえを救うと願われていたことを知らされま

す。そのとき初めて自分中心であった自分を知らされます。そして私を思っ

「分散会」

午後は七つの会場に分かれて分散会を行いました。

「仏讃コンサート」

最後に、ふたたび御影堂へ移って、高田派僧侶でシンガーソングライターのヒナタカコさんの歌を聴いて研修を終えました。

へと代わります。最後に北海道の坊守さんで、病床にあつて癌と闘ってたくさんの詩を

次回、ご参加をお待ちしております

いのちを大切にすることは、
 いったいどういうことなので
 しょうか。その問いに「健康な
 体を維持する」や「他のいのち
 を奪わない」と答える人も居る
 でしょうし、「ご先祖さまを大
 切にする」と答える人もいるか
 もしれません。もちろんそれ
 らは大切なことだと思います。

今、私がここに居ることがどれ
 ほど奇跡的なことであり、私が
 死ぬことをいやがるのと同じく
 らい、みんなも死ぬことをいや
 がっているということは、忘れ
 てはいけない大切なことだと思
 います。しかし私はそれと同じ
 ぐらい大切なことがあると考え
 ます。

釈尊がこの世に出られたのは
 真理を説くためであります。こ
 の、何かを行うために生まれた
 という考えは「出世本懐」とい

います。釈尊は様々な教えを説
 かれたので、出世本懐の経が複
 数挙げられることもあります
 が、浄土真宗においてその教え
 は阿弥陀仏についてなのです。
 正信偈の「如来所以興出世 唯

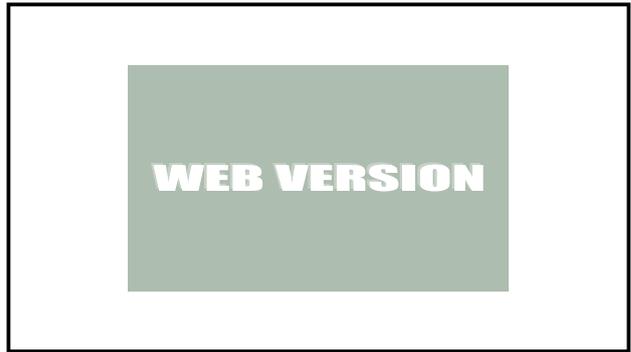
リレー法話
「いのち」
 「生死のながき夜
 すでにあかつき
 なりぬと
 あそばされ候」
 三重十四組 松原寺
 住職 上杉祥樹

説弥陀本願海」という箇所をみ
 ると、親鸞聖人はそのように考
 えられていたはずでです。そして
 親鸞聖人自身も、阿弥陀仏の教
 えを信じ、広められました。そ
 うした釈尊や親鸞聖人のような

生き方こそが、いのちを大切に
 することではないでしょうか。
 しかし、教えを説き広めるこ
 とは、誰もができることではな
 く、私にとっても荷が重いもの
 であります。そのような私に
 は、仏を信じ念仏する者すべて

を救いたいという阿弥陀仏の願
 いと、それを伝えられた聖人の
 教えを受け止め、阿弥陀仏に救
 われている実感を得ることこそ
 が肝要なように思えます。

輪廻の思想によりますと、は
 がりしれない昔からずっと、生
 と死を繰り返しています。釈尊
 が世に出られたおおよそ二千五百
 年前にも、親鸞聖人が活躍され
 たおおよそ八百年前にも、教えを
 受けることができなかつた私
 が、今生に縁あって阿弥陀仏の
 教えにであえたことを、とても
 嬉しく思います。





後行御影 後行御影 後行御影

報恩講のご懇志は
進納所で受付して
おります
食堂でお非時を
いただきますよう

お非時

十二時半より速夜勤行と
お説教(田中唯聴さん)
十三時より安楽庵見学
十二時四十分より
国宝指定記念特別講演
三重大学大学院教授
菅原洋一先生
講演後 国宝記念通り参拜

十八時半より初夜勤行と
お説教(佐藤弘道さん)

献書展 於大玄関廊下
全日

七時より晨朝勤行と
お説教(岡知道さん)
九時より
高田学苑参詣
十時より
高田幼稚園参詣
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行と
お説教(真直信海さん)
十二時半より大講堂説教
(松田信慶さん)
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説



十四時より速夜勤行と
お説教(水沼碧水さん)
説教後 国宝記念通り参拜

十八時半より初夜勤行と
お説教(浦井宗司さん)

十時より十五時
宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄関廊下
全日
生花展 於休憩所
全日

七時より晨朝勤行と
お説教(藤井徳雄さん)
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行と
お説教(金森顕宏さん)
十一時半より責任役員会
十二時半より大講堂説教
(真直美德さん)
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説

十四時より速夜勤行と
お説教(安藤純海さん)
説教後 国宝記念通り参拜

十八時半より初夜勤行と
お説教(鷲山了悟さん)

十時より十五時
宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄関廊下
全日
生花展 於休憩所
全日

七時より晨朝勤行と
お説教(安藤章仁さん)
十時より
高田短期大学参詣
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行と
お説教(戸田恵信さん)
十二時半より大講堂説教
(島義厚さん)
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説

十四時より速夜勤行と
お説教(大河戸悟道さん)
説教後 国宝記念通り参拜



毎日 12:30 より
大講堂説教

十八時半より初夜勤行と
お説教(里榮秀教さん)

十時より十五時
宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄関廊下
全日
生花展 於休憩所
全日

晨朝

日中

速夜

初夜

晨朝

日中

逮夜

初夜

後夜

お七夜さん

1月13日

七時より晨朝勤行とお説教(中村宜成さん)
九時より如来堂にて特別講演(藤田正知先生)
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行とお説教(田中明誠さん) 十時半より
お七夜新成人のつとめ
十二時半より大講堂説教(真直和徳さん)
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説

十四時より逮夜勤行とお説教(花山光瑞さん)
説教後 国宝記念通り参拝

十八時半より初夜勤行とお説教(松山智道さん)

十時より十五時 宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄閣廊下 全日
生花展 於休憩所 全日

1月13日

1月14日

七時より晨朝勤行とお説教(生桑宗等さん)
九時より如来堂にて特別講演(北島恒陽先生)
十時より他山御焼香
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行とお説教(梅林久高さん)
十二時半より大講堂説教(藤澤眞純さん)
十三時より宗務院にてお七夜子ども大会・献書展表彰式
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説

十四時より逮夜勤行とお説教(高林亮英さん)
説教後 国宝記念通り参拝

十八時半より初夜勤行とお説教(千草篤昭さん)

十時より十五時 宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄閣廊下 全日
生花展 於休憩所 全日

1月14日

1月15日

七時より晨朝勤行とお説教(芳川賢史さん)
十時より安楽庵見学

十時半より日中勤行 御親教
復演(栗原廣海さん) 法主褒賞授与式
十二時半より大講堂説教(藤山眞哉さん)
十三時より安楽庵見学
十三時より宝物館解説

十四時より逮夜勤行とお説教(戸田信行さん)
説教後 国宝記念通り参拝

十八時半より初夜勤行とお説教(廣田隆學さん)
お七夜婦人連合会初夜参詣
十九時より白塚通夜講(じし)念仏
二十時半より通夜念仏

二十時半より後夜勤行 十時より十五時 宗曰古流呈茶 於有慶堂
献書展 於大玄閣廊下 全日
生花展 於休憩所 全日

1月15日

1月16日

七時より晨朝勤行とお説教(長谷部行雄さん)
九時より御参廟
十時より安楽庵見学



十時半より日中勤行とお説教(眞直智海さん)
説教後 国宝記念通り参拝
十二時半より大講堂説教(安田真源さん) 全日
献書展 於大玄閣廊下



十五日初夜は報恩講式文を三段すべて拝読されます



子ども大会

※場所の記載のないものは御影堂にておこなわれます。

1月16日

1月15日

1月14日

1月13日

「初転法輪」

釈尊シリーズ ⑨

全世界を代表して最高神である梵天に法を説くよう請われた釈尊は、かつて苦行を共にした五人の旧友をもとめ、ベナレス郊外の鹿野苑を指し長い旅を続けておりました。五人は遠くに近づくと釈尊を認めましたが、釈尊のことを苦行から逃げ出した墮落者と決めつけて、話しかけられずとも無視することにしようとして申し合わせ待ち構えておりました。ところが目の前に現れた釈尊の姿が余りにも尊く気高かつたため、誰からともなく迎え入れ上座に座るよう案内するのです。釈尊は五人に向かつてこの上ない真理を覚ったことを

伝え、自らは如来であると名告りました。如来とは「如（真実の世界）からやって来た者」ということです。そして五人に向けてその真理について懇々と語りはじめます。こうして最初の説法が行われました。それは何日にもわたったそうです。やがてひとり覚り、ふたり覚り、ついに五人全員が釈尊の説く真理を理解し、同じ覚りの境地に至ったのです。

釈尊は声を上げてよろこばれたそうです。一旦は人に語っても理解されないであろうと法を説くことを断念しかけていたものが、今こうして覚りを共にできることを目の

当たりにしたのですから。

ここに真理は初めて人類に説かれ、その後の仏教の壮大な潮流の幕開けとなりました。後にこのことを「初転法輪」と呼ぶようになります。輪とは古代インドの武器（または車輪）のことで。輪が回転しながら大勢の敵をなぎ倒す姿から、釈尊の説法もまた、法の輪となり無数の人々の煩惱を次々と打ち破ってゆく様に例えられたものです。



この時、釈尊のその後の人生が定まったのです。八十歳で入滅されるまでの四十五年間、ひと処にとどまることなく国中を旅しながら伝道の日々を続けられました。当初五人だった仏弟子はやがて何千何万という強大な教団を形作るまでになりました。その流れは国を越え、民族を超え、海を渡り、遠く日本にまで及び、今私たちの元まで届いているのです。

(教学院第三部会)



親鸞聖人ご旧跡を訪ねて



第四回 車の道場

少し順番が前後しますが、今号の釈尊シリーズが初転法輪ということにちなんで、誠照寺派の上野別堂をご紹介します。

坊守さんの研修の一環で訪れたこの地は、流罪にあわれた親鸞聖人が法

然上人から離れて初めての説法を行ったといわれ、真宗の初転法輪の地ともいわれています。

また、「車の道場」という別名は、流罪地の越後に向かう道中に乗っておられた輿車こしぐるまから、この地で降りたという伝承によるものです。

また、安置するご本尊は慈覚大師の直作の阿彌陀如来で、これは聖人御形見の背負の御木像との

ことです。

上野別堂は誠照寺の本山境内から南にあり、鯖江駅からは徒歩で約六百メートル、十分ほどで到着します。(山川蓮生)



汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。(敬称略・奉仕日順)

九月 西林寺・西念寺・光蓮寺

十月 蓮性寺・妙華寺・浄徳寺・西向寺・願行寺・満誓寺・光明寺・正蓮寺

十一月 ふれあい長寿津北部・第一一寿会・光泉寺・栄松寺・本念寺・慈智院

本山のご奉仕で汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わり山内が護持されています。お檀家さま・お同行さまだけではなく一般の団体の方にもご来山いただいております。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いいたします。

WEB VERSION

WEB VERSION

WEB VERSION

報恩講へのお参りをお待ちしております
毎日、国宝記念・通り参拝をおこないます

三重の国宝 (建造物)
高田本山 専修寺

お七夜

平成30年
1月9日(火)～16日(火)

高田本山 三重県津市一身田町 2819
TEL.059-232-4171

www.senjuji.or.jp

尊皇講 九月一日国立劇場にて声明公演

平成三十年九月一日、東京国立劇場に於いて、九年振り二度目となる「声明公演」が行われる運びとなりました。

披露されるのは、真宗高田派に伝わる『報恩講式』。宗祖・親鸞聖人の御遺徳を偲び、讃歎する古式ゆかしい勤行式です。

私自身、前回公演以来、またこのような機会に巡り合えたことに、改めて身の引き締まる思いです。

また公演に先立ち、高田本山では、報恩講(お七夜さん)が厳修されます。本年は、如来堂、御影堂の両御堂が国宝に指定される慶び多き年となりました。新たな一歩を踏み出した高田本山で、お待ちしております。 恭敬部 青木義成

栃木県立博物館で開催されていた「中世宇都宮氏」展に本山所蔵の国宝「西方指南抄」や「三帖和讃」、本寺に安置されている重要文化財「真仏上人像」、「顕智上人像」を含む法宝物が多数出陳されました。

寺院名

高田本山
Senjuji

三重県津市一身田町
2819
真宗高田派本山専修寺

「一緒に除夜の鐘をつきませんか？
煩惱をなくすことはできませんが、
「ご自身の煩惱に改めて気づきなおい
新しい年をはじめましょう。」

- 行事案内
- 十二月三十一日 除夜会
 - 一月一日～三日 修正会
 - 一月九日～十六日 報恩講
 - 法会中の行事は4～5ページをご覧ください
 - 三月十八日～二十四日 讚佛会

